

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | <p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> | ○ | 理念の中に「地域に根ざした明るく楽しいホームにします。」とあげ、職員一同地域の方々と親しく交流している。 |
| 2 | <p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> | | |
| 3 | <p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> | ○ | 平成21年3月、地区の神楽に招待を受け利用者様4名の方々と餅まき等に参加し、楽しく神楽を見、おいしい料理(すし、煮付け等)を頂いて帰った。 |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | <p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> | ○ | 畑の花が色とりどりに咲きほこり、通りすがりの人の喜びの声や花を写真に撮る姿に利用者様の皆さんが喜ばれる。 |
| 5 | <p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|--|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 毎月の職員会で地区の行事等、協力できる事はないか話し合っている。自治会にも協力の意思を伝えて検討していただいている。 | ○ | 民生委員大淀地区高齢者福祉部会8名の方の施設の見学、研修を引き受けた。「グループホームは家庭的で利用者様の表情が穏やかです。」との評価をいただいた。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価を全職員で行い、各々自分の目で施設での介護・利用者様毎の介護について考えている。 | ○ | 以前の評価で指摘のあった事項は、経営者も交え職員全員で改善策を協議し、速やかに実施した。 |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議で出た意見を基に見直しを行い、サービスの向上につなげている。会議では、ホームの短所、欠点を敢えて発言していただくよう要請し、改善につなげている。 | ○ | 運営推進会議には、社会福祉法人理事長も参加してもらい、豊富な福祉事業経験に基づく助言もいただいている。 |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 経営者が市の元福祉部長であり、市とのコンタクトはとれており、各部署の職員との交流がある。 | ○ | 先進的事例の情報を市職員から得ることもあり、改善に役立っている。 |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 経営者が講師となり各制度を学習している。現時点では実例はないが、必要性があればいつでも対応できる。 | | |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待については、介護のつもりが虐待になっていないか、この介護で良いのかと常に職員同士注意し防止に努めている。 | ○ | 経営者が元特養の施設長であり、見聞した事例を職員会で講義し、虐待の未然防止に努めている。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|--|---|--|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は予め説明書をお渡しした上で、十分な説明を行い、不明なところ、疑問点を解消いただいて、契約を締結している。 | ○ 入所後の不明点、疑問点についてお尋ねがあれば、丁寧に説明し、納得を頂いている。 |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 不満・苦情用紙を玄関のわかりやすい所に置き、いつでも記入できるようにしている。 運営推進会議の中で、施設側が席を外す時間を設け、家族から出た意見等を委員から発表してもらい運営に反映している。 | ○ 日頃から、家族から不満・苦情を真摯に聞く事に心掛けている。また、家族が気軽に意見が言えるような人間関係を構築し、運営に反映している。 |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 「大河通信」「大河写真集」で日常の生活や職員の異動については、異動者のプロフィール等をお知らせしている。 家族の面会時やケアプランの更新時に利用者様の健康状態、金銭管理等の説明・報告を行っている。 | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族等より意見・不満・苦情が出た時は、その時解決できる事はその場でなおいし、その場での解決が困難な事は、ホーム長はじめ皆で見当し早い時期に解決するように努めている。 | ○ 玄関に意見・苦情箱をおき、意見表出の一手段としている。 また、社会福祉法人理事長が苦情相談員として、月1～2回訪問し、利用者様や家族の相談を受けている。 |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の職員会議等で職員の意見・提案を聞いて、日々の仕事中でも気になる事は何でも聞き反映させている。良い事はすぐ仕事に反映させている。 | ○ 何でも気軽に話し合える雰囲気ができている。 |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 事業体は2ユニットあり、緊急時には互いが応援できる体制を作っている。 | ○ 人事異動や他のユニット勤務を定期的に組み、利用者様との馴染みの関係を築き、緊急時対応を容易にしている。 |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動しても同系列の施設のため「どこかで会ったわね」と顔なじみの職員の為、利用者様のダメージは少ないようである。 離職を抑える見地から、管理者はチームワークやモチベーションの維持に心を配っている。 | ○ 姉妹施設の「年輪」の職員の定着率も高い。キャリアパス等の奨励により職員に働きがいのある職場である事を、事業所の目標ともしている。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|--|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 県や市の研修を職員の経験に応じて参加させている。研修の年間計画をたて、全職員が何らかの研修に参加できるようにしている。 | ○ 事業所としてキャリアパスを支援し、認知症ケア専門士、学習療法士1級、介護福祉士等の資格を取得した。 |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他のグループホームと交流をもち、月1回相互訪問を重ね、おたがいの勉強や励みになっている。近隣のディサービス誕生会・催し物に呼ばれ交流を楽しんでいる。 | ○ グループホーム悠々とは2か月に1回、グループホーム年輪とは月に1回の交流を行っている。 |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 職員間で気兼ねなく話せる雰囲気があり、悩み等ある時はじっくりと聞く雰囲気を作っている。 | ○ 施設には広い花壇があり、四季折々の花々が咲き心を癒してくれる。家庭菜園で穫れた新鮮な野菜を職員に提供し事業主と職員の一体感を創出している。 |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 新たに資格を取得した場合は、手当により処遇している。アイデアを出してくれた職員には事業主がタイムリーに感謝の言葉を述べている。 | ○ 職員の小さな気付きにも声かけや励ましをしている。 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居時に家族から、生活特性を記入してもらい、これをケアプランに反映している。ホームでの不安な事、生活面で困っている事など何でもお聞きしている。 | ○ 利用者様各自の生活等の記録は職員全員で熟読し、新しい事実は記録し、プランに反映できるようになっている。 |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 家族の相談事にも真摯に対応し、困っていること、不安なことは職員が心して傾聴し、その思いを全職員で受けとめている。 | ○ 見学の方からは、ホームの雰囲気の和やかさ、職員の接遇の良いことの意見を頂くことが多い。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|--|------|---|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 各人の生活歴、既往症等に基づき、きめ細かな対応に心掛けている。場合によっては、看護師の定期的な訪問が必要な方もおられ、事例も2件ある。 | ○ | 車イス等の福祉機器の購入希望があった場合は、業者へ値引き交渉を行った。 |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ご本人・家族に見学をして頂き、十分納得の上での入所を奨めている。 入所後は、全職員でその方の馴染める雰囲気、その方の居場所作りを行い、ゆっくりとすすめていく。担当の職員を決め、話し相手や相談相手になるようにしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | ご本人の特技・資格等を考慮し、主役・主人公になれる場を作り教える楽しさも味わって頂く。 例えば、調理の手助けをされたり、アドバイスを職員がもらったり、家庭的な雰囲気の中で職員や利用者様が共に協力し合って良い関係を構築している。 | ○ | 調理が得意な方が腰を痛められ、調理ができなくてここに居る価値がない、と嘆かれた時も「あなたはホームに居なくてはならない方、早く腰を治して下さい、待ってます。」と励ましたら大変感激された。 |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 家族はご本人にとって、無二のものであり、心の支えである。家族にできない介護部分は職員が担い、家族と共にご本人の安穏な生活の維持、支援に努めていく。 | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | ご本人と家族の関係は、今迄の生き様、家族の経済状況、家族間の価値感の相違により微妙に異なることから、調整に心を配りながら、双方の関係がより円滑になるよう努めている。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の遠戚の方、友人の方等どなたがみえても暖かく迎え支援している。また本人が希望される場所に外出することに努めている。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | その人その人の輝いていた時を知り、皆で共有しあうことでお互い関わり合い、支えあっている。また、相性を把握した上で交流の手伝いをしている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|--|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 退所された方にも連絡をとり、行事には参加の呼びかけを行っている。 家族からの電話相談等には、家族の現状を配慮し、適切な助言や、他事業所の紹介等を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | その方の生き方、思いを本人や家族から聞き、行事やレクレーションに生かしていく。 職員は利用者様ごとに担当があり、会話や生活の様子を観察し、利用者様が何を求めているか考える努力をしている。 | ○ | 年若いでも社会の役に立ちたい思いは、皆さん持っておられるが、一例として調理師を長年務めた方にフキの美味しい料理法を教えて頂き皆さんで食べた。 |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 永年馴染んだ習慣、趣味、特技や家庭環境等の把握に努め、利用者様の希望に添える毎日である様に努めている。 | ○ | 昔のアルバムをお借りして元気な頃を話題にとり入れたりしている。 |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 利用者様の個別日誌を作成し、本人ができること、できないことをスタッフ全員が把握できるようにしている。また潜在能力の有無に気を配り、生き甲斐作りに努めていきたい。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画は、利用者様・家族の要望を取り入れ、担当者とケアマネで検討し作成している。毎月の職員会議では、全員で話し合い補足修正している。 各利用者様の目標に合わせて計画し、生活の中で行うよう努力している。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 本人のその時々に応じた介護計画を3か月ごとに作成している。家族・職員と共に話し合い現状に即した計画を立てて取り組んでいる。 | ○ | 車イスの方が徐々に歩行できるようになり、家族と相談し歩行器を使う介護計画を立てた。その後、歩行器もいらなくなり杖を使われる迄に改善した方もいる。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|--|---|------|--|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子・状況を個別記録・ホーム日誌等に記入し、変化などみられる時は、申し送りで確実に伝えている。 介護計画の見直しに当たっては、個別記録を精査し、現況よりも健康が改善されるよう心している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 介護支援専門員、正看護師、介護福祉士等の専門性を活かしたアドバイスや支援を行っている。 利用者様の個室の他に予備室を1部屋設けており、利用者様の家族で遠方の方など、その部屋に泊まっていたいでいる。 | ○ | 認知症ケア専門士及び学習療法1級等の資格者を擁して、その専門性を活かしたケアに役立っている。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 毎月1回避難訓練を行い、年に1回は消防署の方に利用者様も参加した避難訓練を指導して頂いている。 ホームの催し物には老人会・地区民に参加をいただいでいる。 | ○ | 民生委員大淀地区高齢者福祉部会8名の施設見学・研修がありグループホームの理解を深めていただいた。 |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 介護支援専門員や看護師のネットワークを通じて情報の収集に努めている。 | ○ | 訪問看護を2件受入れた。 居宅介護支援、輸送サービス事業所とも連携している。 |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 地域包括支援センターの会議に出席しコンタクトは取れている。 権利擁護や身体拘束などの指導を受けている。 | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族の希望により、内科や歯科のかかりつけ医が往診している。又、内科の医師から皮膚科医の往診を要請された例もあり、職員も安心して介護を行えるようになった。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|---|--|------|---|
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 野崎病院がホームの協力医療機関であり、相談できる体制を築いている。また、別の診療内科や精神科医とも利用者様を通じて関係が構築され、電話相談もできる。 | | |
| 45 | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 正看護師が月の3分の1夜勤を行っており、夕方から夜間みている。又、昼間利用者様に変化があっても携帯電話で連絡し、的確な指示を受ける。健康管理から医療・薬の管理まで支援している。 | ○ | 姉妹施設「年輪」の正看護師は経験豊かであり、時にはその意見を聞く等、バックアップ体制も築いている。 |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 利用者様が入院された時は、家族と相談した上で、医師、看護師、ケースワーカーとよく協議している。入院中に認知症が進行することもあるので、早期退院に向けて医療関係者とも連携している。 | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した状態を看護師と相談し、家族や医師と連携をとりながら対応している。 職員との話し合いを持ち、全員で終末期の介護の方針を共有している。 | | |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | かかりつけ医が終末期であると診断した場合は、利用者様や家族と十分に協議し、ホームでの看取りを希望された時は、可能な限り対応する。看取り中に入院の必要が生じた場合は、希望に添って柔軟に対応することになっている。 | ○ | 今回短期間であったが、看取りを行った。家族は他県旅行中であったがホームが連絡をとり、利用者様と最期のお別れの会話もでき、大変喜ばれた。 看取りの指針もホームで作成した。 |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 住み替えの事例はないが、入院された時など病院の看護師等と情報を交換し、おだやかに過ごせるよう努めた。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|--|---|--|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 理念の第一に上げているように個人の尊厳を大切にすることからも言葉かけは特に大事にしている。個人情報の取扱いは慎重を期し、医療機関等への情報提供も最少限とする様、常に留意している。 | ○ 時には、経営者が利用者様や家族の立場に身を置いて、接遇の状態をチェックし、注意や指導をしている。 |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 朝の更衣の時、着たい服を選んで頂いたり、工作等の時はそれぞれの方の残存機能に応じた分野を担っていただく等、本人の希望や能力を発揮できるよう工夫している。 | ○ 歩行訓練や余暇の楽しみ方には、本人の希望を最大限採り入れた対応に心掛けている。 |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 天気の良い日は、お昼を弁当にしてベランダで召し上がって頂いたり、外の花が咲きそろった時は、一人一人好きな花を見に散歩にお連れしている。家族からは「ホームに来て、生き生きとしてきた」との感想を多くいただいている。 | ○ 利用者様の方から「今日は○○しましょうか」と要求され、利用者様サイドでレクレーションを楽しまれている。 |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 家族と協力して、本人の希望にそったカット・パーマ等できるようにしている。理容院の出張カットも利用している。利用者様のお孫さんが美容師さんでその方の協力により、ホームでのパーマが可能となり喜んでおられる。 | ○ 他の利用者様がパーマを希望されたら、ホームで行えるようになった。 |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 昔、料亭で調理をされていた方は調理の度に手伝って頂いている。又、筍やフキ等を頂いた時は調理法を皆さんに教えて頂き、調理し皆さんから大好評を得た。 | ○ 季節・行事に応じた献立を作っている。ホームの菜園でとれた新鮮な無農薬の食材を提供し「美味しい、美味しい」と好評いただいている。その場に居合わせた家族には、野菜を持ち帰って頂いている。 |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | たばこは、本人様の喫煙したい時に職員と一緒に決まった場所で喫煙して頂いている。ライターと灰皿は、職員が管理している。ホーム内で喫茶店が開かれ自分の好みの飲み物を注文できる。 | ○ 買物デーの際に好みの品を買われ、生活に変化と張り合いを感じておられる。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|--|---|------|---|
| 56 | ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄に関しては、その人の状態に合わせて行っている。30分毎の排泄の方や、排泄がわからない方への声かけ等、快適に過ごしていただく様に配慮している。 | ○ | おむつ、はくパンツで入所された方も今は布パンツになられた。 入所時は尿意・便意がなかったが、今では「トイレに行こうかな」と意思表示が可能となった。このような事例は3件ある。 |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | バイタルチェックを行い、その日の体調により入浴をすすめたり、中止したりしている。又、長湯が好みの方、シャワーが好みの方と、その人に合わせ入浴介助をしている。 | ○ | 脱衣場の温度管理に注意し、冬季の暖房、暑い時期の扇風機の使用で、入浴を楽しんでいただいている。 |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | その方の生活リズムに合わせ、休息を取り入れている。昼夜逆転や不眠傾向の方には、昼間ホームの周囲の畑・花壇・里山での豊かな自然景色を楽しまれ、散歩で適度な疲れを感じてもらい安眠につなげている。 | ○ | 花見等で外出した時には、早目の休息を行い、窓からの光で眠れない方には、カーテンの開閉を細かに調整している。 |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 農業の経験のある方には野菜や花の栽培のアドバイスを、裁縫の経験のある方には縫い物やつくり物の手伝いと、職員に対して教えるという喜びを感じてもらっている。 | ○ | 野菜の調理法や保存方法を職員が教わり、一緒に作業している。 牛乳パックで椅子作りを楽しんでもらっている。 |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の協力のもと支援している。外出の時、自分の好きな物を購入して頂いている。管理できない方は職員と一緒に買い物・支払いを行っている。 | ○ | ホームから100m程離れた無人販売所に、漬物や果物等を買に行かれる時もある。 |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 月に1～2回外出したり、桜などの花見等の外出も季節毎に行っている。庭の花や畑の野菜等の観察は、希望に添って頻繁に行うようにしている。 | ○ | 家族が毎日のように見えるので、家族との外出が多い。 |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族といっしょの外出を年1回計画している。社協のバスを利用し、負担少なく外出できるよう努めている。 | ○ | 平成19年11月は青島パームビーチホテル、平成20年11月は青島サンクマールで、家族と一緒に食事会を行った。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|--|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は子機があり、電話をかけたい時は、自室でゆっくりと話す事ができる。 手紙のやりとりは自由にできるように、ポストへの投函などで支援している。 | ○ | 遠距離に住む娘さんが面会に来られた時、帰り着いた頃電話で「無事帰り着いたね」と確認されている。 「小包着いたよ。ありがとう」と電話されている。 |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 友人や馴染みの人達はいつでも訪問できるし、職員一同歓迎していることから、訪問者も多い。 | ○ | 訪問者は、部屋と接続するウッドデッキや庭の畑、花壇の景観に感動されることが多い。「私も老後はこんな所に住みたい」との言葉をよく頂く。 |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は行っていない。 仮に拘束しなければならない事態が生じた時は、一時的、切迫性があり代替手段がないの、三原則を厳守し、家族の同意、職員の協議を経て家族の了承のもと慎重に行うことにしている。 | ○ | 経営者が講師となり、身体拘束ゼロを実現すべく研鑽を重ねている。 |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 居室に鍵の設備はない。 玄関は朝6時過ぎから夜の9時頃まで鍵はかけない。 玄関にはセンサーが取り付けられており、外出等の気付きをしている。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 利用者様の所在や様子は、職員同士連携をとりながら把握し、安全に配慮している。 | ○ | ホーム内が広い為、時折ホーム内を巡視して利用者様の所在・様子を確認しあっている。 |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 庖丁は流しの下別の場所に保管し、洗剤等は鍵のかかる場所に収めている。 | ○ | 各人の行動パターンは職員が把握しており、常に注意を払って事故の未然防止に努めている。 |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 転倒・窒息はおきないようにしっかり見守っており、外出はセンサーでチェックしている。 薬は職員二人で確認、誤薬や服み忘れのない様注意している。 | ○ | 喫煙は決まった場所で必ず職員が付き添い、ライター、灰皿は職員が管理している。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|------|---|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 消防署が行っている救急訓練を順次受けているところである。 避難訓練は月1回行っている。 | ○ | AEDを設置し職員はその取扱いの研修を受けた。 火災通報装置・火災報知設備工事は終わっている。 |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている | 避難訓練には、利用者様も参加いただいている。 近くの皆さんにも災害時の協力をお願いしている。 避難場所の古城小学校は180m程と近い。 | ○ | 災害時に備え、手作りの滑車付移動具を作成して、訓練も行っている。 スロープは両入口や各室から外に出れるウッドデッキの3か所がある。 |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | その人毎のリスクを家族にも伝え、抑圧感を与えず、かつ、いかにしたらリスクを回避できるか、職員で検討し、実行している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎日バイタルチェックを行い、変化を早目に見つけるようにしている。変化に気づいた時は、先づ看護師に連絡し指示を受ける。次に家族に連絡し、情報を共有している。 | ○ | 体調の変化があった時は、申し送りの時次のスタッフに告げ、個別日誌にも記入し職員にわかるようにしている。 姉妹施設「年輪」の、正看護師のサポートを受ける体制がとれている。 |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 毎日、職員が薬の配薬を行い、一人ひとりの薬について理解している。 毎月職員会議で看護師より病気・薬・対応策を学んでいる。 | ○ | 薬剤情報ファイルにより、薬の作用、副作用は理解している。 職員会議でも、経営者が薬の管理、服薬の支援等の注意について話をしている。 |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 食物繊維の多い物やヨーグルトを食事に出すなどの工夫もしている。また体を動かす働きかけとして、庭の花壇や畑を見に行かれるよう、誘導している。 | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後、歯みがきを行っている。 歯科衛生士によるブラッシングの指導を受け、自分で歯みがきのできない人には、介助している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|--|------|--|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食分量・水分量は毎日記録し、体調の維持、増進に役立つようにしている。又、量もその状況に即して変化させている。 | ○ | 嚥下が悪い方にはトロミをつけたり、切り方も一口大からミキサー食まで木目細かに対応している。 |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 秋には、インフルエンザの予防注射をしている。感染症対策マニュアルで研修を行い、実行している。 | ○ | よく手が触れる場所は、ハイターを使用し除菌に努めている。 |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 食材は、2日以上のもつめ買いはせず、新鮮で季節感のある食材で調理している。 ホームの畑でとれた無農薬野菜を調理に使っており、利用者様には大好評である。 食中毒の第1原因は、作りおきにあると思うので、調理は直前に行う。 | ○ | 近所の方や家族の方から旬の野菜を頂くことがあり、利用者様の皆さんと一緒に調理法を話し合い、調理している。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 建物の周囲にはたくさんの花が咲き、プランターにもたくさんの季節の花が楽しめるようにしている。 玄関の出入りもゆるやかなスロープになっており、出るのに苦にならない。 | ○ | 庭の花を愛でていると近所の方も寄ってきて、雑談される事もあり、花の美しさに利用者様、近所の方も感嘆されることが多い。 |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 南側のベランダの設置により真夏の暑さ、雨のふり込みを避けることができている。 利用者様の皆さんは、その日の気分によってベランダで話されたり、外をながめたり、散歩をされたりゆっくり過ごされる。 | ○ | 天気の良い日は、お昼をベランダで食べたりしている。 |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ベランダで一人涼風に吹かれてみたり、ホールで皆さんと話されたり…その時々思いで過ごす事ができる。 | ○ | ベランダには木の温もりのあるベンチを多く置き、ゆったりした時の流れを楽しんで頂いている。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|---|------|---|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | タンス・置物・花飾り・小物・写真等本人が過ごしやすいように工夫して配置し、本人が安らぎを感じられるよう配慮している。 | ○ | 読書が好きな方に机を持ってきたら人形・ぬいぐるみ等で飾られ、「まるで女の子の部屋みたい」と喜ばれたり、植物に関心のある方には、観葉植物の植木鉢を提供した。 |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 各部屋に換気扇があるが、南向きにはベランダを設置し、風通しがよい。又、温度調節も朝夕の気温変化に気を付け、細めに行っている。 | ○ | 周囲の田より高く盛土してあるため風通し、日当たりがよく、何より空気が美味しい、とお客様からも感想を頂く。 |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレは広く作られており、車椅子の方でも一人で用が足せるようにできている。又、ホール廊下が広く、自操できる方は好きなように動かれている。 | ○ | 3か所のスロープを利用して、自由に屋外でも過ごせるようにしている。 キッチンや洗面台は車椅子対応の器具を設置し、利用しやすいようにしている。 |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | その方その方により、できる事をゆっくり過ごして頂いている。あせられる事なく、自分でできる事を楽しんで頂いている。 | ○ | お食事を1時間かけてゆっくりと召し上がる方、食器洗いをして下さる方、お盆ふきを手伝って下さる方、各人の残存機能を活用して頂けるよう工夫している。 |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 建物の周りには数々のプランターがあり、たくさんの花が咲き、利用者様はこれを楽しんでいる。時には玄関より出られて、外の(畑)花々も見に行かれる。玄関はゆるいスロープになっており出入りが容易である。 | ○ | ホームは里山・田園に囲まれ、古城川の水音の聞こえる場所にある。ベランダからの緑豊かな眺望は、利用者様はもちろん見学の方も目を見張られる。 |

| V. サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|------------------|--|-----------------------|--------------|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・無農薬有機野菜の食事を、皆さんで美味しく頂いてもらうのが私達の喜び。
- ・安らぎと、笑顔に満ちた明るいホームが、介護する私達の目標。
- ・利用者様が一日一日を楽しく、健康で、長生きしていただけるお手伝いが、私達の介護。
- ・介護する職員のチームワークがとれていて、各々がきちんと利用者様の好み、習慣、趣味等を熟知、「その人にあった介護」を実践するのが私達の勤め。
- ・四季に花、人にやさしさが私達のホーム。